



H3/4-NP-001-R00

浜岡原子力発電所3,4号炉 プラント関係審査資料の作成状況

2023年4月24日

中部電力株式会社

1. 審査資料の作成方針 (1/2)

■ まとめ資料

- 当社申請後の追加要求事項（バックフィット項目）を反映するとともに、先行炉審査状況を適宜確認し、まとめ資料を整備
 - ハザード確定後に確定・評価が必要な項目等については追而

■ 比較表

- 合同審査実績のある浜岡4について先行BWR3サイトと比較した**4連比較表**を整備
- 浜岡3については**浜岡4との差分を比較**した**2連比較表**を整備

【4連比較表】	柏崎6,7 <small>ベース</small>	女川2	島根2	浜岡4
	BWRモデルプラント	浜岡と同じ東芝製原子炉	最新許可プラント	合同審査実績あり

【2連比較表】	浜岡4	浜岡3
	先行炉と比較済	浜岡4との差分を説明

浜岡3,4号炉共通の内容については、効率化のため、項目単位で省略する（項目名は記載）

- BWRモデルプラントである柏崎6,7をベースに作成
- 東海第二は、日立製原子炉、マークII型格納容器と共通点が少なく、審査論点については後続の女川2、島根2に反映されていることから、東海第二を除く3サイトとの比較により、先行炉との相違把握が可能
- ただし、審査項目によっては比較対象を柔軟に設定する
 - 越流津波：東海第二と比較
 - 使用済燃料乾式貯蔵施設：伊方3、玄海3,4と比較
 - 添付十一：美浜3、柏崎6,7、島根2と比較 など

1. 審査資料の作成方針 (2/2)

■ 比較表作成範囲の考え方

- まとめ資料の「**本文**」：全て作成
- 上記以外のまとめ資料：全て作成（ただし、以下のものは作成不要と判断）
 - ① 当社固有の事項であり、比較対象となる他プラント資料がないもの
 - ② 各プラント固有の事項であり、他プラントと比較する意味合いがないもの（主要建物の構造概要 など）
 - ③ 他の比較表で先行炉との相違点を把握可能なもの（本文、添付資料、他条文等の比較表で把握可能 など）
 - ④ 記載内容が細かく、比較表形式にすると判読不可能なもの（細かい図表類 など）
 - ⑤ 非公開資料（大規模損壊・別冊 など）
 - ⑥ 浜岡3,4号炉共通のもの（緊急時対策所及び同手順 など）の2連比較表
 - ⑦ 浜岡4号炉のみ作成するもの（使用済燃料乾式貯蔵施設 など）の2連比較表
 - ⑧ その他（ハザード側の審査資料 など）

2. 審査資料の作成状況

■ 作成方針に従い、以下追而項目を除き、**まとめ資料及び比較表を作成済**

- なお、添付書類三については、工事規模確定後に更新する

追而項目（前工程）		関連条文	反映時期
ハザード 関連	（基準地震動）	<ul style="list-style-type: none"> 4/39条、6条（その他外部事象）、9条、16条、34条 37条（想定事故1,2、要員・資源、付録1）、43条、50条 技術的能力1.0、2.1 	ハザード 確定後* *：項目により 作業期間が 異なる
	（基準津波）	<ul style="list-style-type: none"> 4/39条、5/40条、6条（その他外部事象）、14条、26条、33条 37条（津波浸水、付録1）、57条、58条、59条 技術的能力1.0、2.1 	
	（降下火砕物層厚）	<ul style="list-style-type: none"> 6条（火山） 	
その他	（竜巻・設計飛来物）	<ul style="list-style-type: none"> 6条（竜巻）、59条 	9月
	（ISLOCA再解析）	<ul style="list-style-type: none"> 37条（ISLOCA、要員・資源、補足説明資料）、39条、56条 技術的能力1.0、1.3 	9月末～ 10月初旬

(補足) 追而とする理由

【竜巻・設計飛来物】

- 仮設足場に飛散防止対策を講じることで足場材を飛来物として考慮しない方針であったが、飛来物管理方針を見直し、足場材を飛来物として考慮することを検討しており、その検討に時間を要している
- 上記に伴い、設計飛来物及び防護対策の見直しが必要であることから、設計飛来物の選定及び評価対象施設の設計方針に関連する部分を追而とした

【ISLOCA再解析】

- ISLOCAの有効性評価については、インターロックどおりの事象進展を基本として一通り解析・評価を終えていたところ、解析条件を変更することがより適切と考えられる事象に気づいたため、再解析を行うこととした
 - 具体的には、事象初期の原子炉注水手段として、HPCSとRCICによる同時注水（いずれも給水喪失に伴う水位低下によりL2で自動起動）よりも、HPCSによる単独注水の方が破断口からの漏えい流量が多くなることがわかったことから、より厳しい条件であるHPCS単独注水条件に見直して再解析を行うこととした
- また、これに伴い漏えい流量が増加して、解析結果が厳しい結果となることが予想されることから、併せて、技術的に説明可能な範囲で解析条件等を現実的に見直すこととした



中部電力